

IRDAY2026

清水建設株式会社 IR DAY 2026

2026.10.26

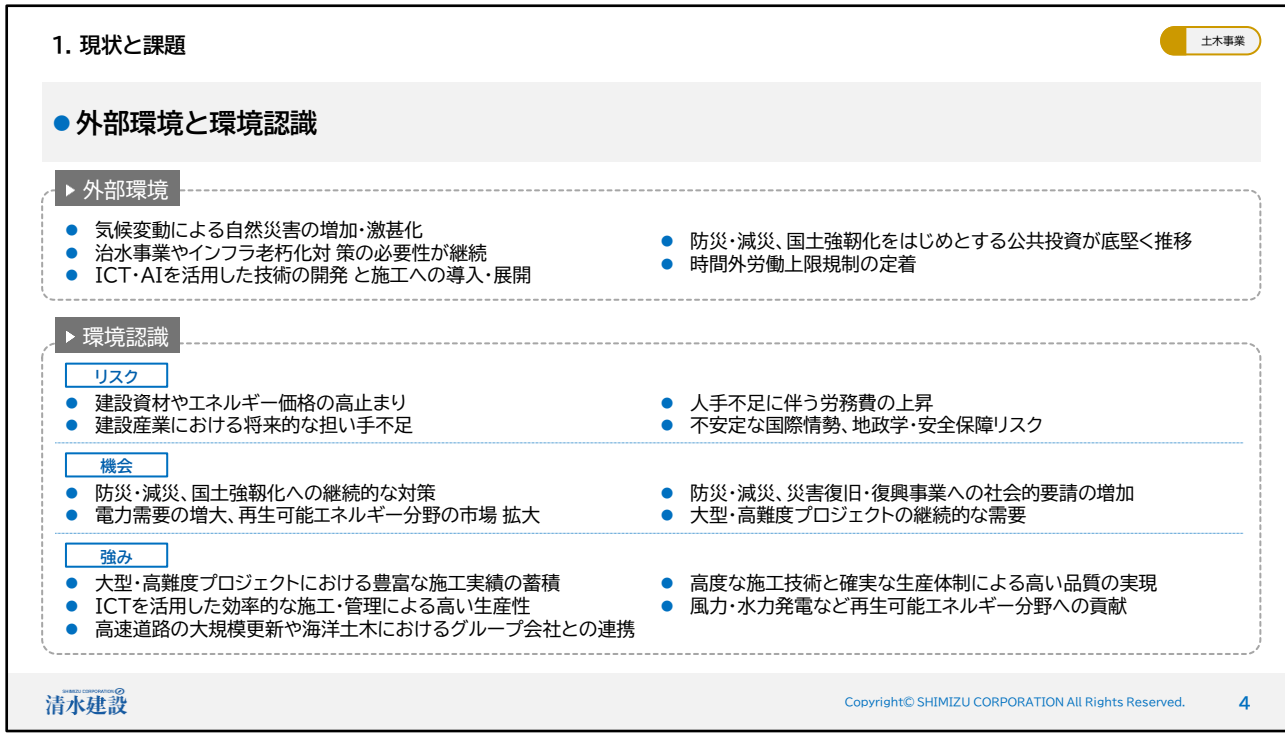


土木総本部長の齊藤です。
「収益力向上に向けた事業基盤の強化」と題して、国内土木事業の現状と
今後の展望をご説明します。



本日の説明内容です。

土木事業の「現状と課題」、次に「主要な取り組みと実績」、
最後に「今後の展望」についてご説明します。



まず初めに「現状と課題」についてお話しします。
１つ目は、外部環境と環境認識についてです。

外部環境としては、令和8年8月千葉豪雨や、令和8年熊本地震等の自然災害が
頻発する中で、ますます防災、減災、国土強靭化の重要度が増しています。

一方で、環境認識としては、先日、政府の日本成長戦略の会合において、
建設分野の人手不足が「今後の成長投資のボトルネック」と位置づけられるなど、
建設産業の将来的な担い手不足に大きな懸念があります。

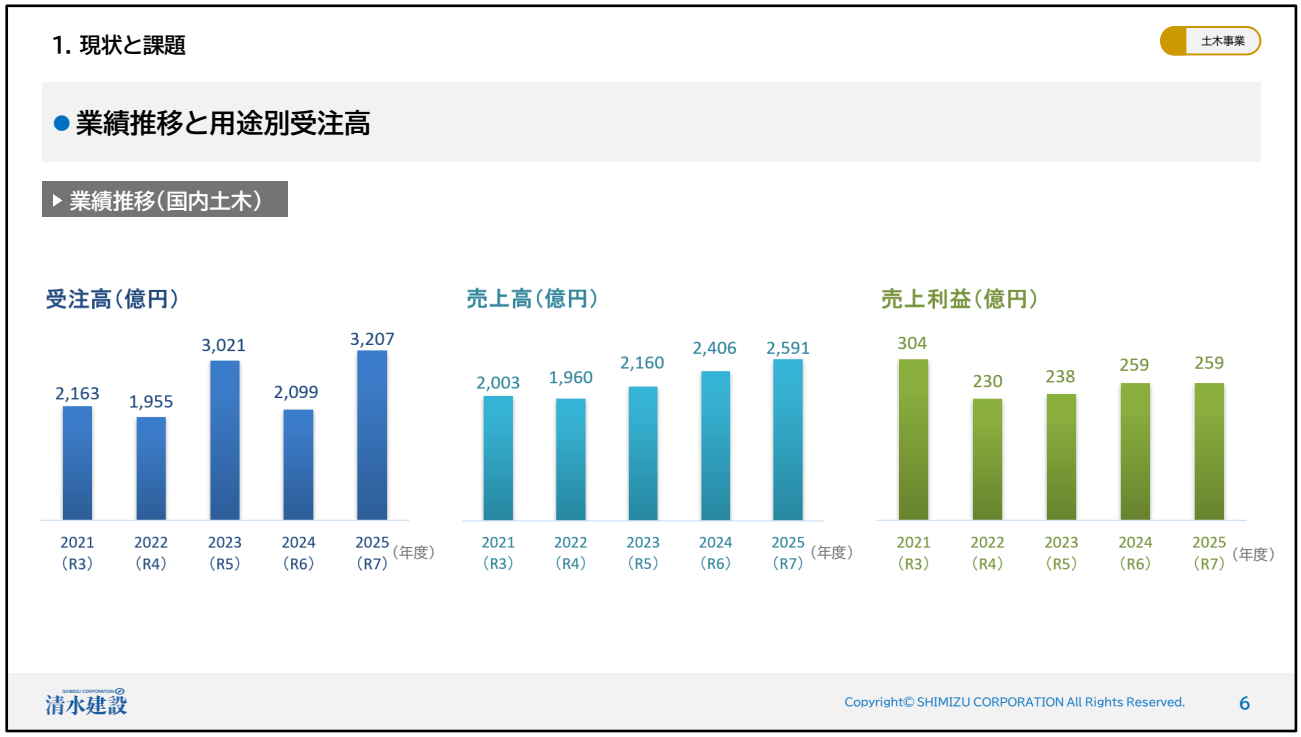
そのような中で、当社はICT・AIを活用した効率的な施工、及び管理による
高い生産性を強みとして、
高速道路の大規模更新工事や風力・水力発電などの再生可能エネルギー分野などに
貢献しています。



次に、現行の中期経営計画の重点施策について、触れさせていただきます。
土木事業として、３つの柱を掲げています。

１点目は「安定した収益基盤」
２点目は「ものづくりの魅力を追求できる生産体制の構築」
３点目は「収益力向上を目指した有望なマーケットへの対応力強化」です。

品質、安全、そして採算を確保できる基盤を構築したうえで、魅力ある建設産業を
実現する生産体制を構築し、国土強靭化など、社会のニーズへの貢献を
目指しています。



続いて、「業績の推移と用途別受注高」です。
こちらは2021年度～2025年度の業績推移を示しています。

左側から順に受注高、売上高、売上利益の推移です。
多少の増減はありますが、受注高と売上高ともに上昇しています。

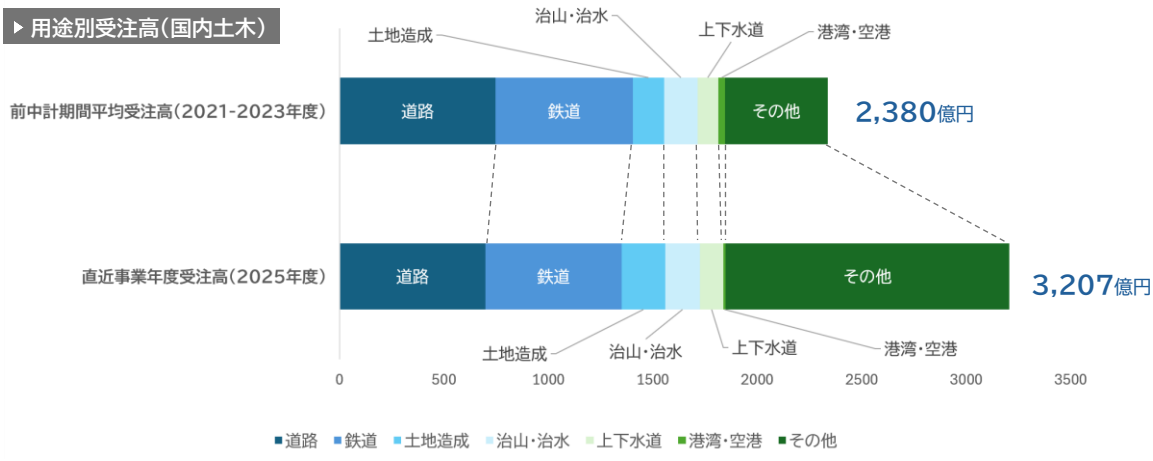
一方、売上利益は2021年度を境に少し落ち込んでいましたが、
収益力の改善に向けた取り組みにより、徐々に持ち直しています。

1. 現状と課題

土木事業

● 業績推移と用途別受注高

▶ 用途別受注高(国内土木)



※その他:再生可能エネルギー(風力・水力等)、原子力分野 等

清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

7

次に、用途別受注高に目を向けると、その他に含まれる、再生可能エネルギー分野や原子力分野などのウエイトが高まってきています。

2. 主要な取り組みと実績

土木事業

● 国土強靭化への貢献

▸山岳トンネル

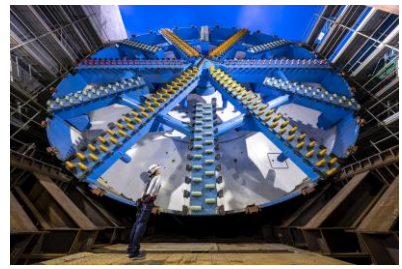
■熊本57号　滝室坂トンネル（熊本）



- 大分市と熊本市を結ぶ高規格道路
- 豪雨被災時の代替路確保と走行性向上

▸シールドトンネル

■新名神　枚方トンネル（京都・大阪）



- 八幡～高槻間を結ぶ新名神高速道路の一部
- 大都市間のネットワーク強化及び、巨大地震・豪雨などの災害に対する対応

▸ダム・橋梁

■足羽川ダム本体・4号橋（福井）



- 日本最大規模の流水型ダム
- 豪雨による水害を発生させないために、上流で洪水を調整

清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

8

ここからは、近年の主要な取り組みと実績についてです。

土木事業では、国土強靭化への貢献に取り組んできました。
いくつか代表的な取り組みをご紹介します。

写真左側から、豪雨被災時の代替路確保と、走行性向上を目的として計画された
長大トンネルである熊本57号の「滝室坂トンネル」。

大都市間のネットワーク強化及び、巨大地震などの災害に対する対応などの役割が
求められている新名神高速道の「枚方トンネル」。

豪雨による洪水被害の軽減を目的とした「足羽川ダム本体・４号橋」などに
取り組んできました。

2. 主要な取り組みと実績

土木事業

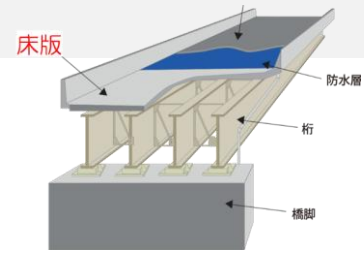
●インフラ更新事業への取組み

▸床版取替工事

■東北自動車道　鳴瀬川橋床版取替工事(宮城)



- 一級河川鳴瀬川を跨ぐ全長404mの橋梁
- 大規模更新事業の一環として、老朽化したコンクリート床版を取替





清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

次にインフラ更新事業への取り組みをご紹介します。

近年、橋梁の老朽化によって床版のコンクリートの剥離や、鉄筋の腐食及び露出が生じています。
そこで、橋梁の本体を残したまま、傷んだ床版のみをリニューアルする
床版取替工事ニーズが高まってきています。
その一環として、当社は、東北自動車道の鳴瀬川橋のリニューアル工事などに
取り組んでいます。

2. 主要な取り組みと実績

土木事業

●再生可能エネルギー事業への取組み（施工実績）





国内トップレベルのシェア

	発電量	風車基数
シミズ実績	1,460,820kW	527基
国内実績	6,434,200kW	2,866基
シミズのシェア	22.7%	18.4%

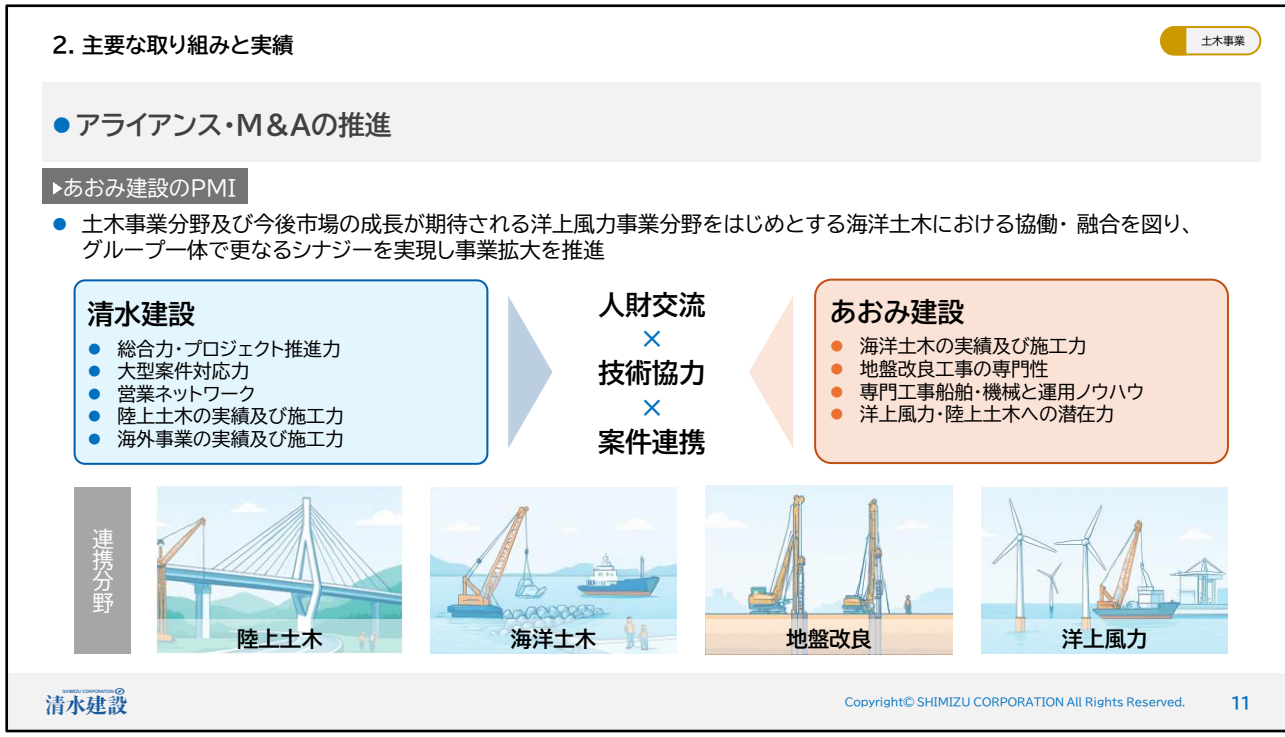
※2026年3月末日現在
※国内実績は、2026年2月18日のJWPA発表資料を引用

清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

次に、再生可能エネルギー事業への取り組みをご紹介します。

当社は、再生可能エネルギー事業の中でも、陸上風力発電分野に注力してきました。
今までの実績は国内で527基、発電量ベースで22.7%と、国内トップレベルの
シェアを誇ります。
現在は稲庭風力発電所など、４か所で施工を進めています。
再生可能エネルギーの需要は高まることが予想されるため、
今後も当社の強みとして、事業を拡大します。



続いて、事業領域拡大に向けたアライアンス・M＆Aの推進について、
具体例をご紹介します。

当社は主力の土木事業分野に加えて、洋上風力事業分野をはじめとする
海洋土木において、事業領域の拡大を図るために、
2026年 6 月にあおみ建設を完全子会社化し、グループ会社に迎えました。

現在、互いのシナジーの最大化を図るためにPMIを推進していますが、
人財交流・技術協力・案件連携を柱として、グループ会社一丸となって
更なる事業領域の拡大を目指します。



ここからは、「シミズ土木の挑戦」と題して、 当社の強みとなる最新の技術開発の動向をご紹介します。

１つ目は、自律型ブルドーザ「Smart Dozer®」です。当社では、担い手不足への対応や生産性の向上を図るために、自律型建機の開発に積極的に取り組んでいます。今回は土工事を担うブルドーザを対象として開発しましたが、この知見を活かし、建設現場のオートメーション化に向けて、更なる開発を推進します。

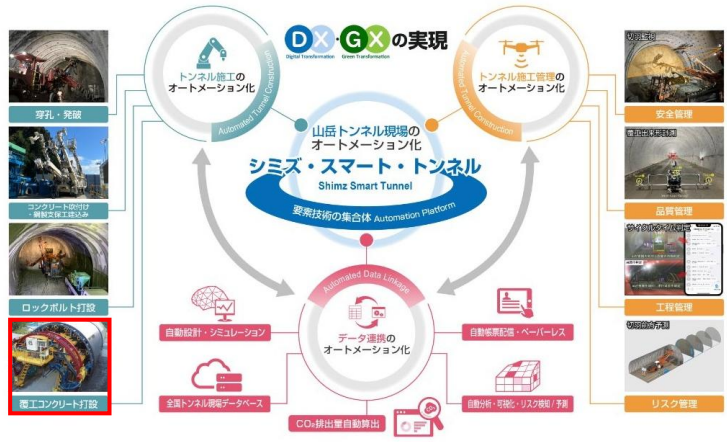
2. 主要な取り組みと実績

土木事業

●シミズ土木の挑戦

- 山岳トンネル現場のオートメーション化に向けた取組み(シミズ・スマート・トンネル)

動画紹介



Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

続いて、当社が強みを持つ山岳トンネルにおける現場のオートメーション化に向けた取り組み「シミズ・スマート・トンネル」です。

山岳トンネルの施工及び施工管理のオートメーション化を目指しています。
その中でも、施工のオートメーション化の一例を動画でご紹介します。

2. 主要な取り組みと実績

土木事業

●シミズ土木の挑戦

- 山岳トンネル分野の技術開発（覆工コンクリートの自動打設）



清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

こちらは、山岳トンネル工事の仕上げとして施工する覆工コンクリートの
自動打設です。
それでは、施工動画をご覧いただきます。
従来は、コンクリートの打設作業において、５名の作業員が必要でしたが、
2名で作業が可能になり、実に60％の省人化を達成しています。

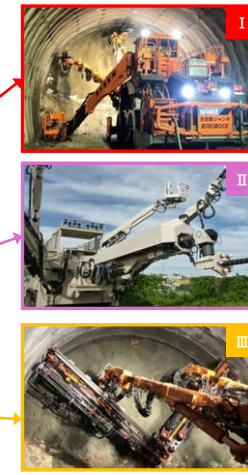
2. 主要な取り組みと実績

土木事業

●シミズ土木の挑戦

● 山岳トンネル分野の技術開発

施工手順		Step-1 【ガイダンス】	Step-2 【機械化/遠隔化】	Step-3 【自動化/自律化】
発破	発破計画		B･C･D社	A社
	穿 孔			A･B･C･D社
	装薬発破	D社	A･B･C社	
ずり出し	コソク		B･C社	A社
	ずり搬出	C･D社	A･B社	
支保	吹付け		B･C社	A･D社
	鋼製支保工		A･B･C社	D社
	ロックボルト		A･B･C･D社	
覆工	覆工コンクリート		B･C･D社	A社



清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

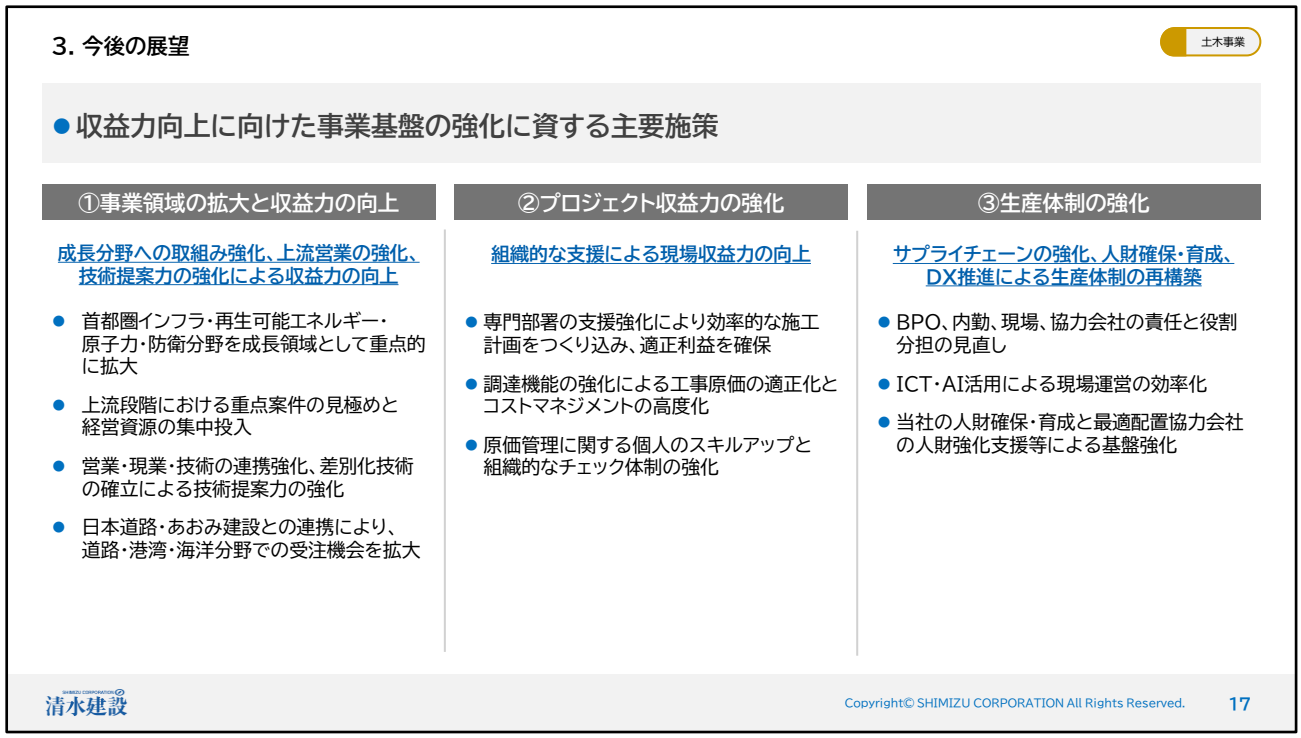
ここで当社の山岳トンネル分野における技術開発の業界内位置づけをご説明します。

青色の当社ロゴである「アイマーク」が示す段階まで当社の開発が進んでいます。
ご覧の通り、当社はStep3の自動化・自律化まで進んでいる技術が多く、
業界内のトップランナーです。
これらの技術開発のアドバンテージを活かし、国土交通省が発注する従来より
技術提案に重きを置く「技術提案評価型ＳⅠ型」などの受注を拡大します。



続いて、当社がトップレベルのシェアを誇る陸上風力分野における技術開発です。

大型のブレードを組みたて可能な移動式タワークレーン
「S-Movable Towercrane」を開発しました。
最大揚程は152m、揚重能力は145tと国内最高性能を誇ります。
今後もこちらの移動式タワークレーンを活用し、施工能力の向上を図ることで、
更なるシェア拡大を目指します。

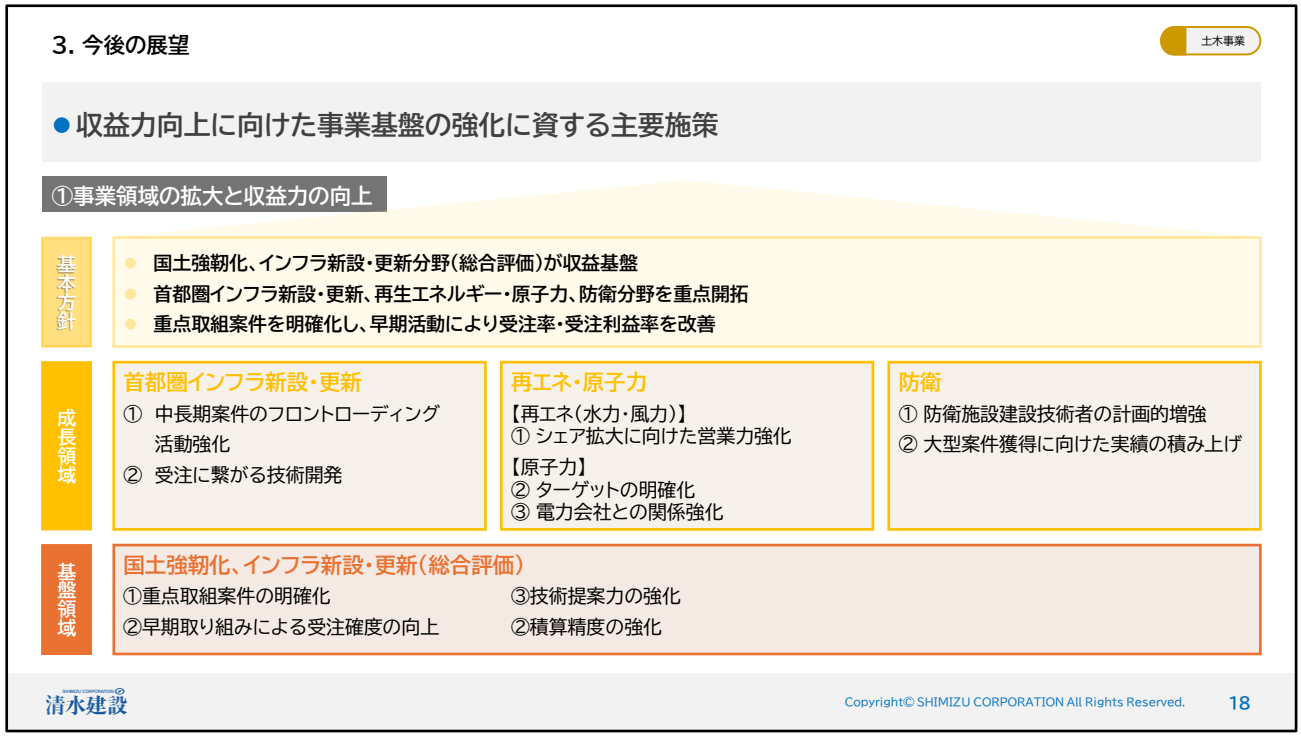


最後に、土木事業の今後の展望について、お話しします。
土木事業の喫緊の課題となっている収益力の向上にむけて３つの主要施策に
取り組みます。

１点目は、事業領域の拡大についてです。成長分野への取り組み強化、上流営業の強化、
技術提案力の強化によって、収益力の向上を目指します。

２点目は、プロジェクト収益力の強化についてです。
専門部署の組織的な支援による現場収益力の向上を目指します。

３点目は、生産体制の強化です。サプライチェーンの強化、人財確保・育成、
DX推進による生産体制の再構築を行い、基盤となる生産体制の強化を図ります。
次ページにて、こちらの３点を少し詳しくご説明します。



１点目は、事業領域の拡大と収益力の向上に向けた土木事業の
営業戦略についてです。

基本方針として、国土強靭化、インフラ新設・更新分野を基盤領域として
定めています。
そのうえで、首都圏インフラ新設・更新、水力・風力発電などの
再生可能エネルギー分野、再稼働に向けた取組みが加速される原子力分野、
安全保障に必要不可欠な防衛分野を成長領域として、重点的に開拓します。

土木事業の課題である収益力改善に向けては、重点取組案件を明確化し、
早期活動に注力することで、受注率・受注利益率の改善を図ります。



2点目は、プロジェクト収益力の強化についてです。

施工の効率化を図り、生産性の向上や原価圧縮を推進するために
営業・応札・契約・計画の各段階にて経営資源を投入し、
専門部署主導によるフロントローディングを実施します。

さらに施工段階において、本社・支店による組織的な現場支援体制を
強化することにより、現場の「稼ぐ力」を強化します。

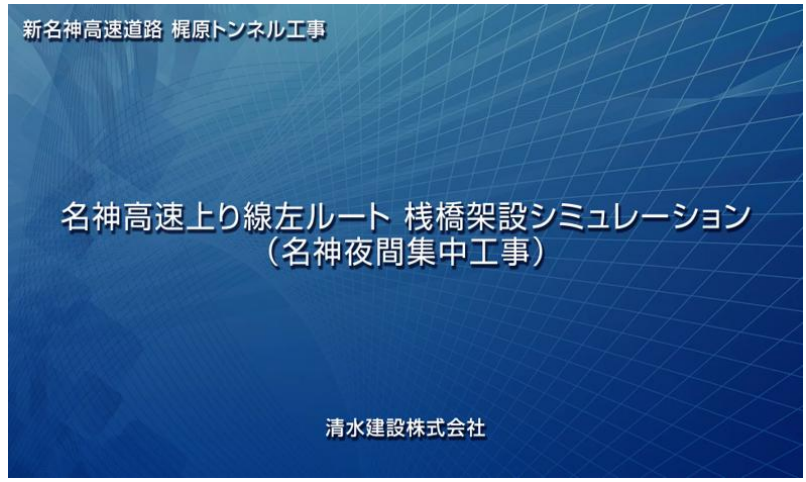
３点目は、協力会社を含めた生産体制の強化についてです。
まずは当社と協力会社が協力して採用活動の強化を行い、サプライチェーンを担う
人財を確保します。
そのうえで、研修・OJT・人財交流などで施工能力向上を行うことで、
人財基盤を強化します。

並行して、AI・ICTを活用することでDXを推進し、生産性の最大化を図ります。
ここで施工シミュレーションの活用例をご覧ください。

3. 今後の展望

土木事業

● 収益力向上に向けた事業基盤の強化に資する主要施策



清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.

こちらは供用中の高速道路上に、仮設の桟橋を設置する工事です。
限られた時間の中で手戻りなく、安全に作業を行う必要があり、
デジタル技術を活用して視覚的に理解できる動画を作成しました。

このように施工前にシミュレーションを行うことで、施工手順の検討や
安全性の確認などを行い、現場の生産性の向上に努めています。

ご清聴ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました

清水建設

Copyright© SHIMIZU CORPORATION All Rights Reserved.